

人相書手配書

人相

高澤切元何
本橋後也
山田屋を流す

源七
可六七

一 中脊中圓毛を走く

一 額平直毛を走く

一 月一ト通う毛色深く

一 眉高眉目右左をくしをみちを解

一 他月人少き房のせは情思を
百三の事

古く去る印を人にもを情とあり

印をいふ身見由由身ありて中世

印を水交際の後を記

彩髪を去るは事候はる殿を重く

名附る事守む中世のよき標記

美令て毛の百一を好遠隠す

毛の跡をくさつたお虫事出辰
あつたお福まのや

辰
さきさき
裁判所

古く通るに居るが裁判所は
福達を以て余を代りて
夫園く布告被

作付のやうなまおむの
功身あつたに居る裁判所は

おまのや

辰
左官

おの通徒

る政官被

作付のやうな辰の中さきさき

辰
裁判所